



月刊

# NOSAI

77

2024  
NOVEMBER  
VOL.76

改正基本法と農業法人経営の課題  
——令和5年度農業白書を踏まえて



# 自著自薦

食環境ジャーナリスト  
食総合プロデューサー

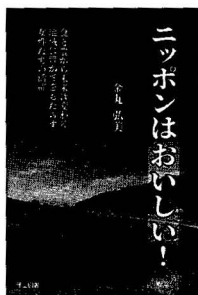
金丸 弘美

本著は女性が農業と食から地域の経済と持続社会に繋ぐ実践活動を、現場を訪ねレポートしたものだ。

山口県大島郡周防大島「瀬戸内ジャムズガーデン」松嶋智明さん。島の柑橘類を中心としたジャムの加工販売に、お洒落なカフェで海の情景を楽しむ空間を創造。離島に7万人が訪れ、ジャムは全国に売れ、雇用も生み出した。静岡県菊川市の塚本佳子さん。アフリカの飢饉支援活動を知り、大学卒業後、海外青年協力隊でエクアドルへ。その後、日本で農業を学び次はアフリカ・ザンビアへ。帰国後、群馬県で研修を受け、菊川市で新規就農。タイ、カンボジア、インドネシアなど研修生を受け入れ30%で農業を展開。国際交流の場へと広げた。

東京都日野市の住宅街で農業を始めた梅村桂さん。都市農地賃借による新規就農の第1号。幼少期はニューヨーク、オランダに住んだ。大学時代、

『ニッポンはおいしい!』



理工図書  
四六判 216頁  
定価:2,090円  
(消費税含む)

発展途上国で農業の素晴らしさに触れ、卒業後、農業法人に就職。消費者に近い顔の見える農業で独立した。千葉県いすみ市「高秀牧場」長女・馬上温香さん。牧場の横にテラス付きのジェラートと軽食の店舗を創り、牛の乳搾りやバター作りなどの食育体験を組み込み酪農の体験ファームを生み出した。などなど。

今までの農業にはなかったイノベーションを女性が生み出している。消費者の目線で身近に欲しいもの、売れるものを創造し、かつ雇用も生まれている。活発な都市農村の交流の場にも農村観光にも繋がる12カ所12女性の多様な事例が登場する。

本著は上野千鶴子（社会学者・東大名誉教授）理事長・WAN ウーマンズアクションネットワークの連載から生まれた。彼女たちの活動を支援し、ノウハウを連携すれば地方に新たな未来が開けるに違いない。

理工図書

〒102-0082 東京都千代田区一番町27-2

TEL:03-3230-0221 URL:<https://www.rikohtosho.co.jp/new-book/>